



【議長室にて額賀議長と】

毎朝、挽きたてのコーヒーを飲むことを日課にしています。豆の産地や焙煎度合いによって全く違う味わいになるので、自分好みの、かつコスパに優れたブレンドを日々追い求めています。

三権の長を身近で支える

吉川 充

秘書課総務係長（兼）議長公邸連絡第三係長
（平成25年入局）

秘書課と聞くと、国会議員の秘書をイメージされる方も多いかもかもしれません。ですが私たち秘書課員は、衆議院事務局の職員として、三権の長である衆議院議長をはじめ、副議長、事務総長の活動を全般的に補佐する業務を担っています。

秘書課の業務は、議長等が出席する式典や宮中行事参列に関する事務、院内で行われる行事の取材対応など、多岐にわたります。その中で私は、国内外の賓客を招待して行われるレセプション（夕食会などの歓迎行事）の準備や、議長秘書と事務局内の各部課、時には霞が関の省庁との連絡調整を行う業務を担っています。

議長や副議長、ゲストである賓客にどのようなサービスを提供するのがよいか。政治的立場やこれまでの経歴、時には国籍、宗教も異なる方々が一堂に会する中で、何が最善の選択肢となりうるか。レセプションの開催に当たっては、上司や同僚と議論を重ね、日程調整から食事のメニューに至るまで、入念に準備を進めます。当日、現場で急な対応を求められる場面もしばしばありますが、課員一丸となっておもてなしの心を体現し、一から創り上げたレセプションを無事成し遂げた際に得られる達成感はひとしおです。三権の長を身近で支える、そのために上司・部下分け隔てなく一致団結できる風通しのいい雰囲気があるのも、秘書課、ひいては衆議院事務局の魅力だと思います。

三権の長をお支える責任感と政治の中核で働く緊張感。この2つはなかなか体験できるものではなく、そこから得られるやりがいは特別なものだと感じています。衆議院事務局を皆さんの選択肢の一つとしていただければ幸いです。

立法の過程を将来に遺す

森上 怜

議事部議案課送付奏上係長
（平成24年入局）

議事部議案課は、国会に提出される各種の議案（法律案や予算等）について、その受理、委員会への付託、修正、送付など、議案の一連の審議過程に関する事務を所管しており、私はその中でも議案審議の出口に当たる送付・奏上業務を担当しています。送付とは、本会議で可決された議案を参議院に送り届けること、奏上とは、両議院で可決し成立した法律の公布を、内閣を経由して天皇陛下に申し上げることをいいます。

送付は、本会議で議案が可決された後、直ちに行っています。議決の結果を正確に記し、議長の公印を付した公文書とともに、議案の原本一式を参議院に持ち込みますが、この手続をもって本院の審議を終え、議案を引き継ぐこととなるので、特に国民的関心が高い重要法案の送付等に向かう時は、とても気が引き締まります。また、これらの手続は国会法、衆議院規則などの法規及び先例に則って厳格に行われ、それに用いられた書類は全て議決原本として院に正式に保存されることにより、立法の適正な手続を将来に伝えていきます。

このように、議案課をはじめとした会議運営部門においては、国会の立法過程における様々な場面において、実務に携わることとなるので、立法機関で働いていることや、やりがいを特に実感していただくことができるのではないのでしょうか。

また、国会では日々たくさんの議案が審議されているので、仕事の忙しい時期が続くこともありますが、その中でも私は子供の送迎のための育児制度を活用するなど、職場の理解を得ながら、子供との時間を確保した働き方を実践できています。このように充実した職業生活と家庭生活の両立をしやすいことも、衆議院事務局の魅力の一つだと思います。



最近の趣味は、キャンプに行くことです。休暇をとり、湖畔や森に行き、家族や友人とのんびりと楽しんでいます。朝起きて自然の中で飲むコーヒーは、なんでこんなに美味しいんだろうと不思議に思うほどです。



旅先で食べたジビエ料理があまりにもおいしくて、ジビエ熱が高まっています。いちおしは鹿肉です。

論戦の現場で

佐野 倫子

委員部第三課課長補佐（経済産業委員会担当）
（平成16年入局）

国会の委員会の様子は、ニュース映像等でご覧になったことがある方も多いかもかもしれません。委員会を開会するかどうかは、与野党の理事の協議を踏まえ、委員長が決定します。その際、日時、議題、議事の進め方、時間配分といった細部も含めて与野党間で合意ができていなければ、スムーズに開会できません。委員部は、与野党双方とやり取りし、それぞれが判断に必要な情報を提供するなどして、こうした協議の進展をサポートします。この間、政府や各会派等の関係者とのコミュニケーションも欠かせません。私が委員部で勤務するのは新人時代と現在で二度目ですが、資料作成や連絡業務を主に担っていた若手職員の頃とは立場が変わり、委員長や理事等に直接説明したり、関係者と調整したりする役割が中心になりました。どのタイミングで、何を、どう説明すればいいか試行錯誤の連続で、調整の末、協議がまとまったときは、少しほっとできる瞬間です。その後、気持ちを切り替え、協議結果に沿った議事が行われるよう準備を整え、委員会当日は委員長の議事運営を補佐します。

委員会の現場で初めて仕事をした時のことを思い返すと、当時の緊張感がよみがえります。経験を重ねたおかげか、今では、多少図太くなったかもしれませんが、それでも委員会は毎回決して同じように進まず、気は抜けません。委員会が無事に散会したときの、安堵感と達成感が入り混じったような感覚は、今も変わりません。熱い論戦を目前にしなが業務に当たるのは独特の経験で、現場でしか感じられない空気があると思います。少しでも、そうした現場に立ち合いたいと関心を持っていただけたなら、ためらわずに衆議院事務局の門をたたいてください。

誇りとやりがいを持てる仕事

君野 祥子

調査局文部科学調査室調査員
（平成20年入局）

私が所属する文部科学調査室では、主に文部科学委員会に提出される法案に関する資料作成や、議員からの調査依頼への対応を行っています。また、所管事項に係る話題について、議員に対する情報提供を主眼とした資料を作成しているほか、委員会での質疑の内容をまとめた「委員会ニュース」等の作成も行っています。

文部科学調査室は幅広い分野を所管しており、教育、文化、スポーツ、科学など多岐にわたります。議員からの調査依頼も、「今日のお昼までに〇〇関係の資料を集めて説明しに来て!」といった迅速性・即応力を求められるものから、「●●にかかる教育費の試算をしてほしい」といった専門性・緻密さが求められるものまで様々です（どれも正確さが第一であることは言うまでもありません）。そのため、基本的・専門的な知識の習得はもとより、日頃から様々な文献・新聞・ウェブサイト目を通したり、政府の審議会を傍聴したり、有識者を招いて勉強会を行うなどして幅広く情報や資料を収集し、整理しておく必要があります。また、それを議員等に対して分かりやすく、論理的に説明する力も求められます。プレッシャーもありますが、議員に提供した情報が委員会での議論に反映されるなど、成果が目に見える形で表れたときには充実感もあり、国会での議論を裏で支えているという誇りとやりがいを持って仕事に取り組んでいます。

また、衆議院事務局は、ワークライフバランスの面でも非常に魅力的な職場です。私は現在2人の育児中ですが、様々な両立支援制度を駆使するのみならず、周りの方々のあたたかい理解・協力のおかげで責任ある仕事ができることに、日々感謝しています。



20年来の推しのバンドの大阪遠征に子供も一緒に参戦してくれるようになり、とても感慨深いです!! 家族の誕生日に合わせて行っている近場旅行が、慌ただしい日々の中の楽しみの1つになっています。